

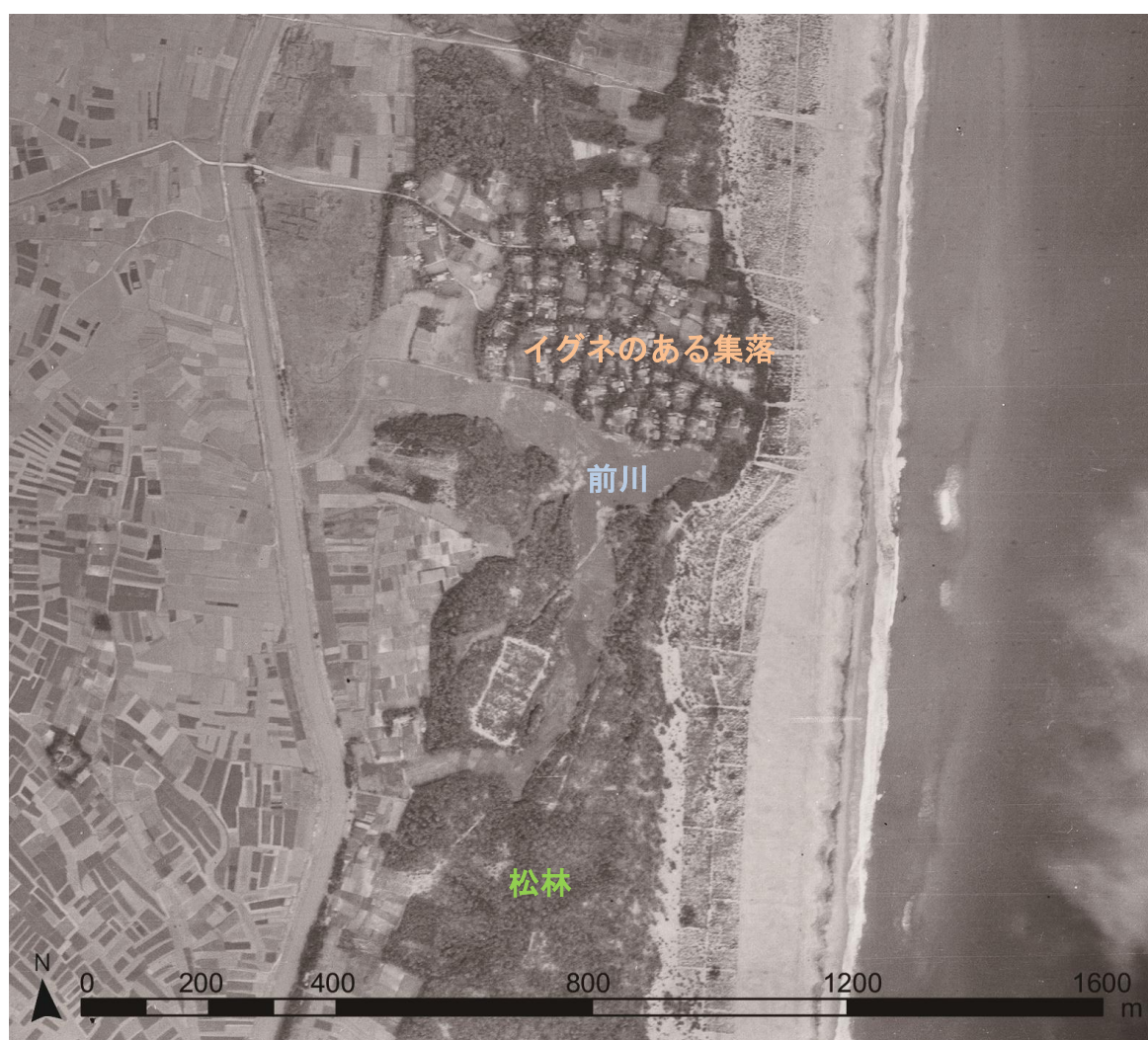
## ヒアリングから明らかになった長谷釜集落の暮らしと豊かな自然との関わり

2012年11月23日(金)～25日(日)の連休に、岩沼市東仮設住宅に隣接する「あいプラザ」において、長谷釜地区にお住まいだった方のうち合計9名の方に、「集落の暮らしと豊かな自然との関わり」についての個別ヒアリングを行いました。これまでに、2011年の秋から行ってきたグループヒアリングや復興まちづくりワークショップによって、人々の絆のつよさ、豊かな自然の存在という、岩沼の沿岸集落の特徴・魅力が明らかになりました。そして、それらをこれからの復興まちづくりに活かしていくため、今回はより詳細な空間や、集落での暮らしの知恵・仕組みについてのお話をうかがいました。

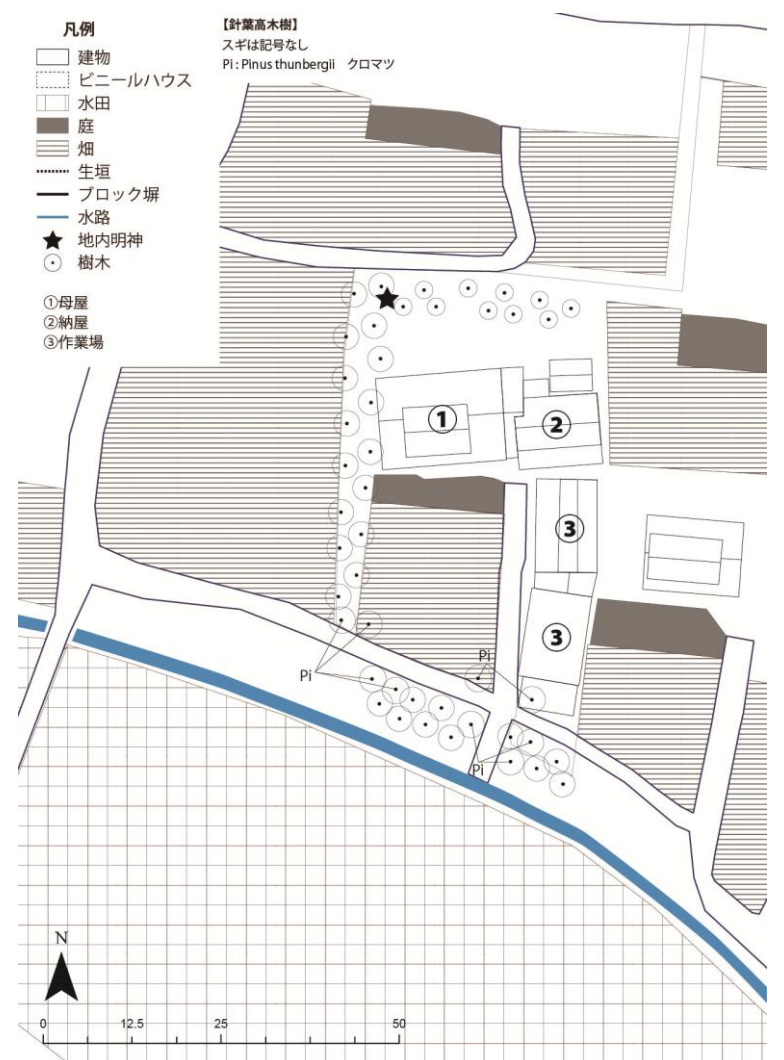
ヒアリングでは、明治から現在までの集落の図面や空中写真などを用い、集落に隣接してかつて存在した前川が埋め立てられてきた経緯や、松林の所有・管理・利用の仕組み、個人の敷地内のイグネの構成や使い方、また集落内の自治組織についてお話をうかがいました。その結果、松林の中の水路で地下水位を下げ、松が倒れにくくする知恵や、集落で松葉さらいを行っていたため、キノコ採りに行って松林の中に入っても木を見れば場所が分かって迷わなかったエピソード、婦人防火クラブなどの様々な自治組織が地域での暮らしに密着して存在していることなどがわかりました。多くの貴重なお話をうかがうことができ、実りの多いヒアリングとなりました。



写真：あいプラザでのヒアリングの様子



左図：1947年の長谷釜の写真。多くのイグネがあることが分かる。



右図：被災前のイグネの構成